

平成30年度行政評価シート【個表】

平成 30 年 7 月 6 日

評価対象事業		評価者	文化財課担当課長 鈴木庸一郎		
文財-04	実施事業	文化財調査・整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	文化財課
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保存、調査・研究、情報の充実	

1 事業の目的

2 平成29年度に実施した事業の概要

対象	市民等	・文化財の指定、指定文化財所有者への適正な管理に対する補助金の交付、発掘調査による埋蔵文化財の記録保存を行った。 ・発掘調査に伴い出土した遺物の整理を行い、適正かつ効率的な管理・保管を行った。
意図	有形・無形文化財、民俗文化財、記念物等の保護及び保存と埋蔵文化財を記録保存し、その活用を図るため。	
効果	文化財を後世に伝えるため保護及び保存し、その活用を図る。	

3 事業費等基礎データ

データ区分	28年度決算		29年度決算		データ区分	30年度当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,869人	80,928世帯	176,466人	81,150世帯	176,308人	81,763世帯		・各年3月31日 (住民基本台帳)
事業の対象者数								
事業の対象者数								
運営資源状況	決算値(千円)	82,676	171,889	当初予算(千円)	212,647			
	国県支出金	33,715	84,113	国県支出金	105,287			
	地方債			地方債				
	その他			その他	590			
	一般財源	48,961	87,776	一般財源	106,770			
	人員配置数	4.0	5.0	人員配置数	4.0			
事業経費運営	人件費(千円)	31,237	39,113	人件費(千円)	31,830			
	総事業費(千円)	113,913	211,002	総事業費(千円)	244,477			
	市民1人当りの経費(円)	644	1,196	市民1人当りの経費(円)	1,387			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す →	見直しの種類	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	調査・研究体制を強化し、未刊行報告書の早期刊行・発掘調査開始までの待機時間縮減に努める。
	<input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →				事業へ統合
予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	文化財を適切に保存し、調査・研究を進め、その成果を広く公開するため、資料のデジタル化等に係る予算の規模を拡大する。		
	<input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする				
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する				

総評(評価に対する考え方、根拠等)	・事業費の削減は、発掘調査の実施を待つ市民の生活へ直接影響を及ぼすことから、事業費に削減の余地は無く、統合もできない。 ・発掘調査費補助金の創設により、発掘調査開始までの待機時間縮減がはかられたが、市民生活への影響を一層減らすため、調査・研究体制の強化について引き続き検討を進める必要がある。 ・発掘調査後に未了となっていた出土資料の整理及び報告書刊行業務の一部を外部に委託し、未刊行報告書の縮減に努めた。成果は出ているが、未刊行報告書は残っており、更なる努力は必要である。
-------------------	---

平成29年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査実施までの施主の待機期間及び、調査終了から報告書刊行までの期間の長期化を解決する必要がある。</li> <li>発掘調査の実施により調査資料は毎年増加しており、資料の迅速な整理と保管場所の確保が必要である。</li> </ul>	
課題解決のために行った平成29年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査出土遺物の保管場所確保について、検討を行った。</li> <li>調査資料の整理及び報告書刊行にかかる業務の一部を外部に委託することで、市直営で行ったものと合わせ、27件分の報告書を刊行できた。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査実施までの待機期間・発掘調査報告書未刊行の件数ともに平成27年度以降縮減できているが、さらなる短縮が求められているところであり、毎年安定的に目標を達成していけるよう、引き続き工夫が必要である。</li> <li>発掘調査により出土資料は毎年増加しており、保管場所の確保と資料の整理は課題として残っている。</li> <li>未刊行報告書は現在も残っており、継続して刊行していく必要がある。</li> </ul>	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	埋蔵文化財包蔵地数(※28年度実績で比較)								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	467	363	216	299	280	478	43	145	221

比較事項	土木工事届出・通知数(※27年度実績で比較)								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	751	442	392	409	212	36	2	36	31

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	鎌倉市は、他市よりも埋蔵文化財包蔵地数及び、土木工事の届出件数が多く、発掘調査を要する案件が多くなる原因となっている。包蔵地数、届出件数が減少しない中で、引き続き市の発掘調査体制強化に努めていく必要がある。
----------------------	---

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	発掘調査までの待機時間	単位	月	指標の傾向		備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	達成率=目標値/実績値
待機時間の縮減が課題であるため。	目標値	-	6.0	6.0	6.0	6.0	0.0	
	実績値	11.0	8.0	4.0	6.0			
	達成率	-	75.0%	150.0%	100.0%			

指標の内容	発掘調査報告書の未刊行件数	単位	件	指標の傾向		備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	達成率=目標値/実績値
発掘調査完了後、未報告となっている資料の縮減が課題であるため。	目標値	-	-	65	45	33	22	
	実績値	-	77	63	51			
	達成率	-	-	103.2%	88.2%			

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査実施の待機期間・発掘調査報告書未刊行の件数は平成27年度以降縮減できているが、さらなる短縮が求められているところであり、引き続き工夫が必要である。</li> <li>未報告調査件数については、未報告資料数縮減が課題であるために設定した指数であるが、報告書未刊行資料の縮減について、新たな方策として業務の一部を外部に委託した。市直営で行ったものと合わせ、27件分刊行できた。</li> </ul>
-----------------------	--